

授与機関名 順天堂大学

学位記番号 甲第 73 号

Impact of anti-doping education and doping control experience on anti-doping knowledge in Japanese university athletes: A cross-sectional study

(日本人大学生アスリートにおけるドーピング・コントロール及びアンチ・ドーピング教育経験がアンチ・ドーピングの知識に及ぼす影響：横断的研究)

室伏 由佳 (むろふし ゆか)

博士 (スポーツ健康科学)

論文審査結果の要旨

【研究目的の特徴・独創性・論理性】

これまでのアンチ・ドーピング教育は国際水準や全国大会上位入者が対象であり、他のアスリートはアンチ・ドーピングの知識や意識が低いと考えられていた。本研究はこの点に注目し、日本の大学生アスリート全体におけるアンチ・ドーピングの知識の実態解明を目的とした点に独創性が認められる。また、科学的な調査データからアンチ・ドーピング教育の方向性を示しており理論性が認められる。

【研究方法の妥当性】

研究目的に対応する研究デザインを採用している。世界アンチ・ドーピング規定全体を網羅した学術的に標準化されたテストが存在しないため、アンチ・ドーピング知識の測定に世界アンチ・ドーピング機構の作成したテストを使用している。このテストは社会科学の研究者グループにより作成され一定の内容妥当性が担保されていることから、現段階では有用な手法であり研究方法の妥当性が認められる。

【結果・知見の新しさ】

大学生全体のアンチ・ドーピング知識が全体的に低い状況であること、ドーピング・コントロールはアンチ・ドーピングの知識に関与しないが、アンチ・ドーピング教育は関与し、2回以上の教育経験のあるアスリートは教育経験のないアスリートよりも正確な知識を有していることを明らかにした点に、本研究の知見の新しさが認められる。

【考察および結論の妥当性】

本研究は、先行研究が少ないながらも、先行研究で示されていたアスリートのアンチ・ドーピングの知識や日本のアスリートを取り巻く状況から丁寧に考察がなされている。また、日本の大学でのアンチ・ドーピング教育向上を目指すための将来の方向性と、大学生アスリートにおいて特に強化が推奨されるべき内容について具体的な方法を示しており、考察と結論の妥当性があると思われる。

【研究の当該分野における位置づけ】

本研究の知見は、日本の大学生アスリートにおけるアンチ・ドーピング教育の発展と促進、アンチ・ドーピング教育のロードマップ作成に貢献できる可能性がある。現行の Code ではアンチ・ドーピング教育は競技水準に関わらず不可欠とされ、ドーピングの予防的アプローチとしてのアンチ・ドーピング教育が求められおり、スポーツ健康科学研究として発展性を有している。

【質疑に対する応答の適切性】

審査会での質疑については、競技種目間での知識の差の有無や、日本におけるアンチ・ドーピング教育の現状確認と、今後の教育実施に向けての具体的な方法等に関する考察についての質問が主となったが、研究の限界を踏まえて丁寧にかつ適切に応答できていた。

【論文審査の結果】

研究と論文執筆が適正に行われ、新規性や妥当性をはじめとする上記の評価項目に対して一定の評価が得られたことから、博士論文として十分な内容を有していると判断し「合」とした。